

鉄砲洲神社素読論語 解説

(平成 24 年 5 月 18 日)

先進第十一

【一】子曰く、先進の礼楽に於ける野人なり。後進の礼楽に於けるや君子なり。如し之を用いば、則ち吾は先進に従わん。

孔子が言うには、古参の弟子達の礼と音楽は野人的なもの、素朴であるけれども信念に満ちて実行力がある。後から入門してきた弟子達の礼と音楽を学ぶ態度は、君主スタイルです。君主というのは、教養は高いが学究的過ぎて実行力に欠けているという評価になります。ちなみに野人と言われた人達は、都心からかなり離れた郊外に住んでいる農民の人達を言います。君主は都の周辺に住んでいる文化的で教養的な市民達という捉え方をしていきます。孔子は、昔の事を思い出し懐かしみながら言っています。

【二】子曰く、我に陳 祭に従いし者は、皆門に及ばざるなり。徳行には顔淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓。言語には宰我・子貢。政事には冉有・季路。文学には子游・子夏。

魯を出て八年目に陳の国境にいた時には、孤立し飢死寸前までの時があったけれども、その時に従っていた弟子達は、今、みな門下にはいない。徳行に秀でていたものは、顔回、閔子騫、冉伯牛、仲弓。言論が達者だったのは宰我、子貢。政治が達者だったのは冉有、季路。文学に秀でていたのは、子游、子夏だったなと思い出しています。この辺は、孔子の映画である「孔子の教え」を見た方はお分かりかもしれませんが、孔子が 68 歳で季康子に迎えられて魯に帰った時の状況です。その時に帰ってから思い出したのだと、映画を見た方は思い出しながら読みますとピタと符合するでしょう。

【三】子曰く、回や我を助くる者に非ざるなり。吾が言に於て悦ばざる所無し。

孔子が言うには、顔回は私の学問の助けにはならない、私が話すことを顔回は、喜んで聞いているだけで何も批判はしない。私の学問の助けにはならないけれども、顔回の態度は非常に喜ばしい。